

JETRO

「2022年米国中間選挙の見通し」

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部米州課

2022年11月1日時点



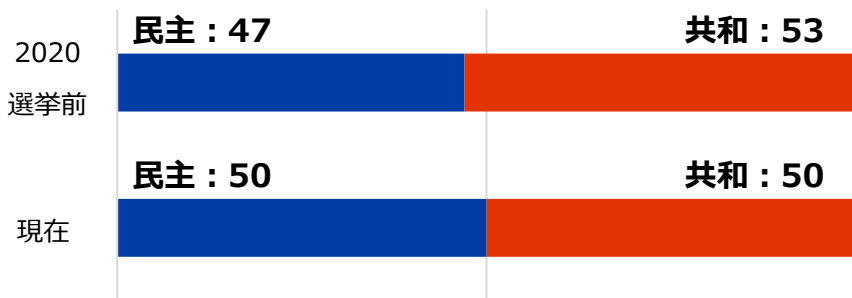
1 | 米国中間選挙のポイント

- 米国中間選挙最大のポイントは、**民主党が連邦上院で多数派を死守できるか否か**。米国の政権与党は近年、中間選挙で大きく議席を減らしている。
- 270toWinのコンセンサス予想によると、**連邦下院では、共和党が多数派を奪取する可能性が高い。連邦上院の見通しは依然不透明。特にジョージア州、ネバダ州、ペンシルベニア州、アリゾナ州が鍵を握るとみられている**。ジョージア州では共和党候補の中絶問題、ネバダ州ではラスベガスを中心とする経済的な課題、ペンシルベニア州では民主党候補の健康不安、アリゾナ州では米墨国境の移民流入などに焦点が当てられている。
- 全体として、**有権者の主な関心課題は、インフレをはじめとする経済、移民、犯罪・薬物、女性の権利（人工妊娠中絶）**。ガソリン価格は6月をピークに下落傾向。移民、犯罪・薬物、人工妊娠中絶は、有権者の暮らしに直結し得る課題。投票率の上昇要因となるか。
- **中間選挙の結果は、トランプ前大統領の共和党内での立場に影響を及ぼす**。多くのトランプ派候補が予備選で勝利し、本選に臨んでいる。保守派の共和党候補が多い中、**無党派層の投票行動が選挙結果を左右し得る**。
- 州知事選（改選36）では、**オレゴン州、ネバダ州、アリゾナ州、カンザス州、ウィスコンシン州の5州で接戦**となっている。**改選後も、共和党の州知事が多数となる見通し**。
- 選挙後の政権運営について、**共和党は連邦下院の多数派を奪取した場合、民主党への敵対を強める予定。共和党が連邦上院で多数派となれば、政治任用や裁判官の指名を阻止される可能性が高まる**。

2 | 連邦議会および州知事ポストの現状

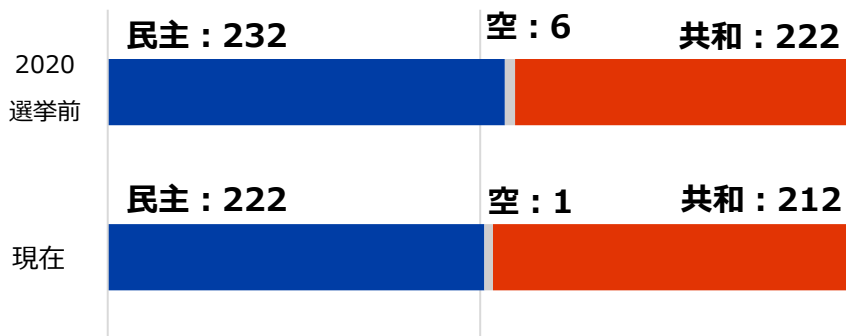
- **連邦上院では**、民主党50議席、共和党50議席と同数。ハリス副大統領が上院議長を兼ねるため、実質民主党51議席、共和党50議席。**民主党がわずかに多数派を確保**している。
- **連邦下院でも、民主党が多数派**。2020年の選挙では、プログレッシブ（進歩派）議員が増加した。

上院議会の構成（100議席、任期6年）



- 上院議長を兼ねるハリス副大統領の1票が加わることで過半数を形成
- 議事妨害（フィリバスター）ルールのため、実質60票の賛成がなければ、法案は可決できない
- ただし、歳出・歳入・財政赤字の変更に関する法案には単純過半数採決を可能とする「財政調整措置（リコンシリエーション）」の適用が可能

下院議会の構成（435議席、任期2年）



- 民主党は2020年11月の選挙で議席を大きく喪失
- 党内急進左派が度々、政権の方針と異なる要求を行い、党内一枚岩とならない場面もあった。

3 | 中間選挙を経て「分割政府」発生 of 過去

- ブッシュ元大統領は2002年の中間選挙で自党の勢力を拡大。他方、**2006年以降、政権政党は中間選挙で議席を減らしている**。**バイデン大統領の選挙前支持率は、近年で最低水準**。
- 2006年と2014年は上下両院、2010年と2018年は一院の多数党と政権政党が異なる状況に。

近年の中間選挙の結果

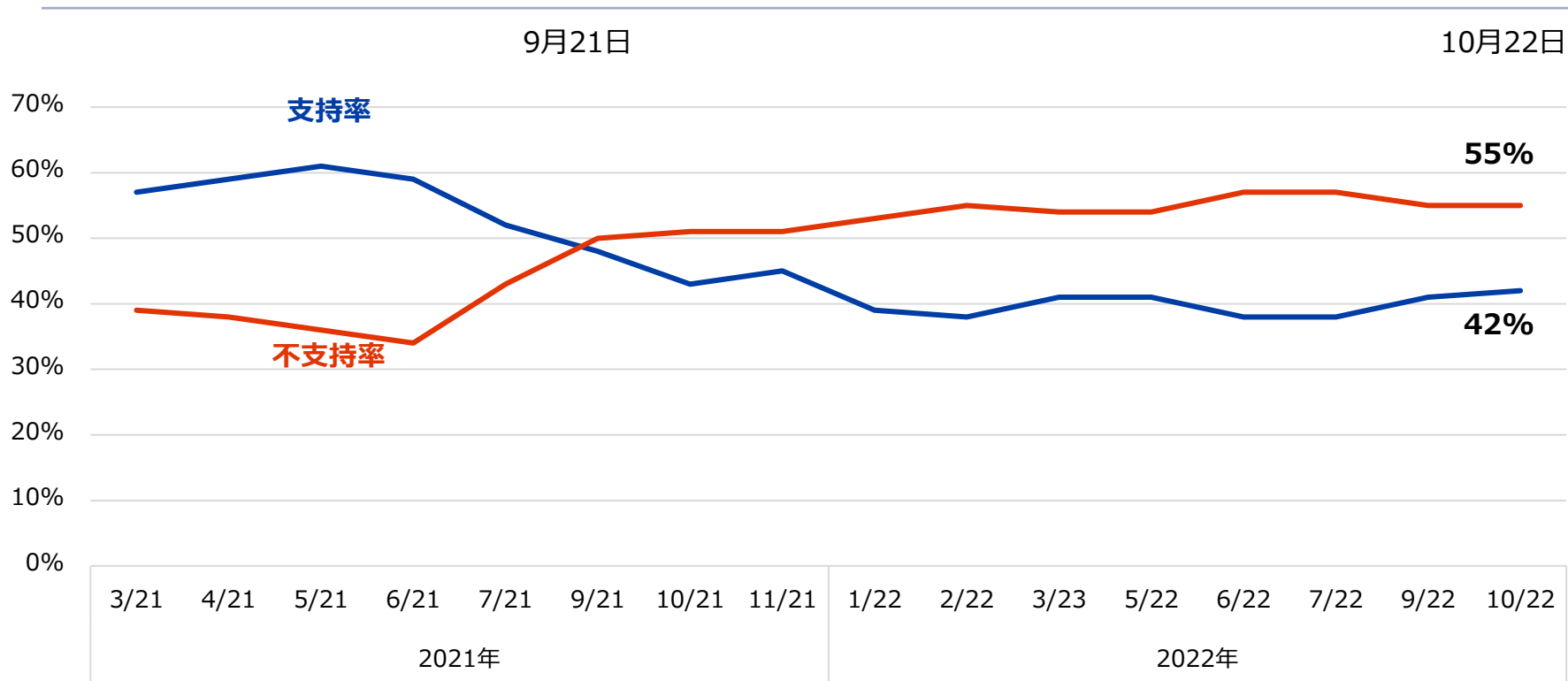
大統領	年	院	改選前			改選後		1期目 中間選挙前 支持率
			民主	共和		民主	共和	
ジョージ・W・ブッシュ (2001~2009)	2002	上院	51	49	→	49 (△2)	51 (+2)	61%
		下院	212	221		204 (△8)	229 (+8)	
	2006	上院	45	55	→	51 (+6)	49 (△6)	
		下院	202	232	233 (+31)	202 (△31)		
バラク・オバマ (2009~2017)	2010	上院	59	41	→	53 (△6)	47 (+6)	46%
		下院	256	179	193 (△63)	242 (+63)		
	2014	上院	54	46	→	46 (△8)	54 (+8)	
		下院	201	234	188 (△13)	247 (+13)		
ドナルド・トランプ (2017~2021)	2018	上院	49	51	→	47 (△2)	53 (+2)	38%
		下院	195	239	235 (+40)	199 (△40)		
ジョー・バイデン (2021~)	2022	上院	50	50	→	?		38%
		下院	222	212				

(注1) 議会は色付きが多数党。赤 = 共和党、青 = 民主党。
 (注2) 下院は空席により、両党足し上げて全435議席にならない年もある
 (出所) 報道資料、ピュー・リサーチ・センターなどを基にジェトロ作成

4 | バイデン大統領の支持率

- ハーバード・ハリスの世論調査によると、バイデン大統領の支持率は、2021年9月時点で支持と不支持が逆転。同時期、デルタ株の流行や高インフレ、アフガニスタン撤退などの問題が重なった。
- **2022年10月22日時点の支持率は42%**。8月に中絶権利擁護の大統領令、インフレ削減法、CHIPS および科学法の成立などが相次ぎ、わずかに支持率回復。ガソリン価格も支持率に大きな影響を及ぼしている。

バイデン大統領の支持率の推移



5-1 | 有権者の主な関心課題

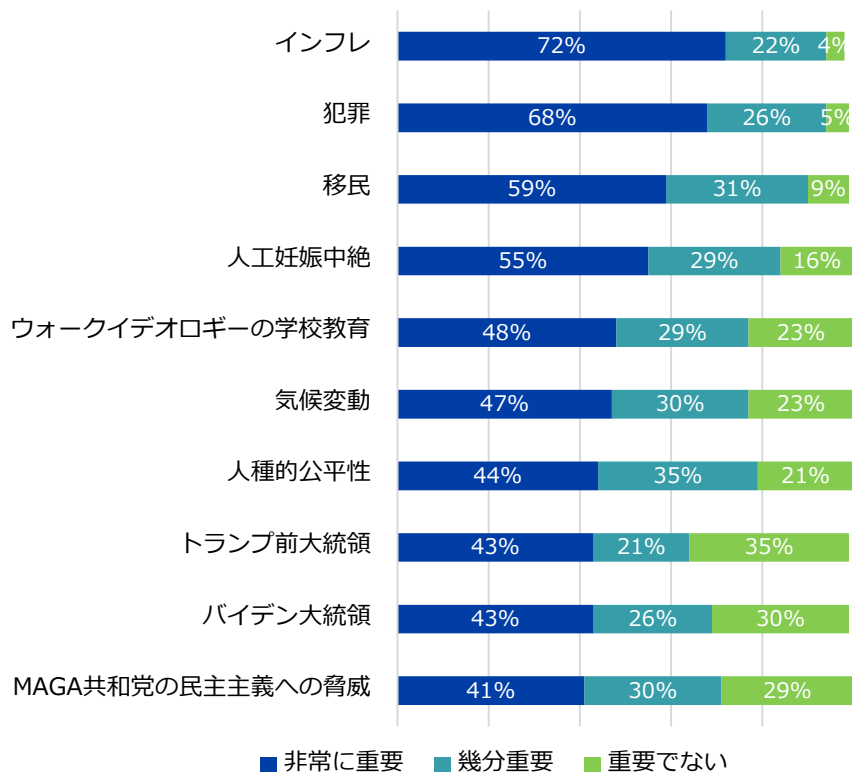
- ハーバード・ハリスの世論調査によると、「米国にとって最も重要な課題」として**物価上昇・インフレが37%でトップ**。経済・雇用（29%）、移民（23%）、犯罪・薬物（18%）が続く。
- **中間選挙を意識してか、バイデン政権は今夏有権者の主な関心課題にアプローチ**。インフレやヘルスケアにはインフレ削減法（8月）、人工妊娠中絶には大統領令（7月）、銃暴力には銃規制法（6月）。

No	米国にとって最も重要な課題	世論調査結果	背景
1	物価上昇・インフレ	37%	消費者物価指数が前年比8~9%上昇となる中、賃金上昇率は5%台。インフレ削減法が8月16日成立。連邦準備制度理事会（FRB）は政策金利を引き上げ中。
2	経済・雇用	29%	2022年9月の失業率は3.5%。特に、足元の景気に敏感な娯楽・接客業で雇用者数増加。他方、インフレ抑制に伴い、景気後退の可能性が高まっている。
3	移民	23%	米メキシコ国境の不法移民が2021年度、過去最多の約173万人に。テキサス州知事は9月15日、移民100人以上をバス2台でハリス副大統領公邸近くに移送。
4	犯罪・薬物	18%	バイデン大統領は8月30日、全米10万人以上の警察官の新規採用を言明。9月23日、医療用麻薬「オピオイド」対策発表。10月6日、麻薬単純所持者へ恩赦。
5	女性の権利	17%	最高裁は6月24日、人工妊娠中絶を憲法上の権利と認める「ロー対ウェイド判決（1973年）」を覆した。大統領は7月8日、中絶権利擁護の大統領令に署名。
6	ヘルスケア	15%	バイデン政権は、「多くの国民が医療保険に加入できるようにする」「低所得者の医療費負担を抑える」ことを重視。インフレ抑制法を通じ対策を強化。
7	銃暴力	15%	5月14日にニューヨーク州のスーパーマーケット、同月24日にテキサス州の小学校で銃乱射事件発生。6月25日、28年ぶりの銃規制法が成立。
8	環境・気候変動	14%	民主党支持者が特に重視。民主党支持者多数のカリフォルニア州は先進的な取り組みを推進。「2035%までにガソリン車の新車販売禁止」など。
9	国家債務・財政赤字	13%	2022年会計年度の財政赤字は1兆3,770億ドル（推計）で前年度から半減。しかし中長期的に見れば、依然高水準。学生ローン減免などの影響も懸念材料に。

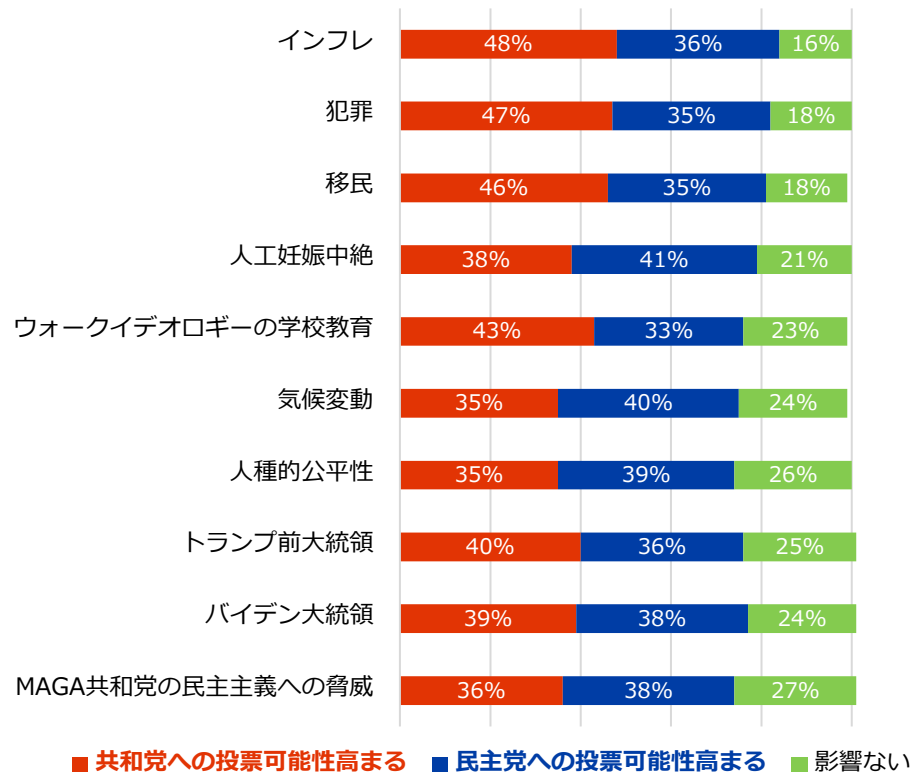
5-2 | 主な関心課題が有権者の投票行動に与える影響

- 中間選挙の連邦下院選における投票行動にとって重要な課題として、**「非常に重要」がインフレ（72%）、犯罪（68%）、移民（59%）、気候変動（47%）の順**で高い。
- **共和党は「インフレ」「犯罪」「ウォークイデオロギーの学校教育」、民主党は「人工妊娠中絶」「気候変動」「MAGA共和党の民主主義への脅威」**などの課題で、特に支持されている。

「以下の課題は、中間選挙・連邦下院選の投票行動においてどれほど重要か？」に対する回答



「以下の課題は、中間選挙・連邦下院選における投票行動にどのような影響を与えるか？」に対する回答

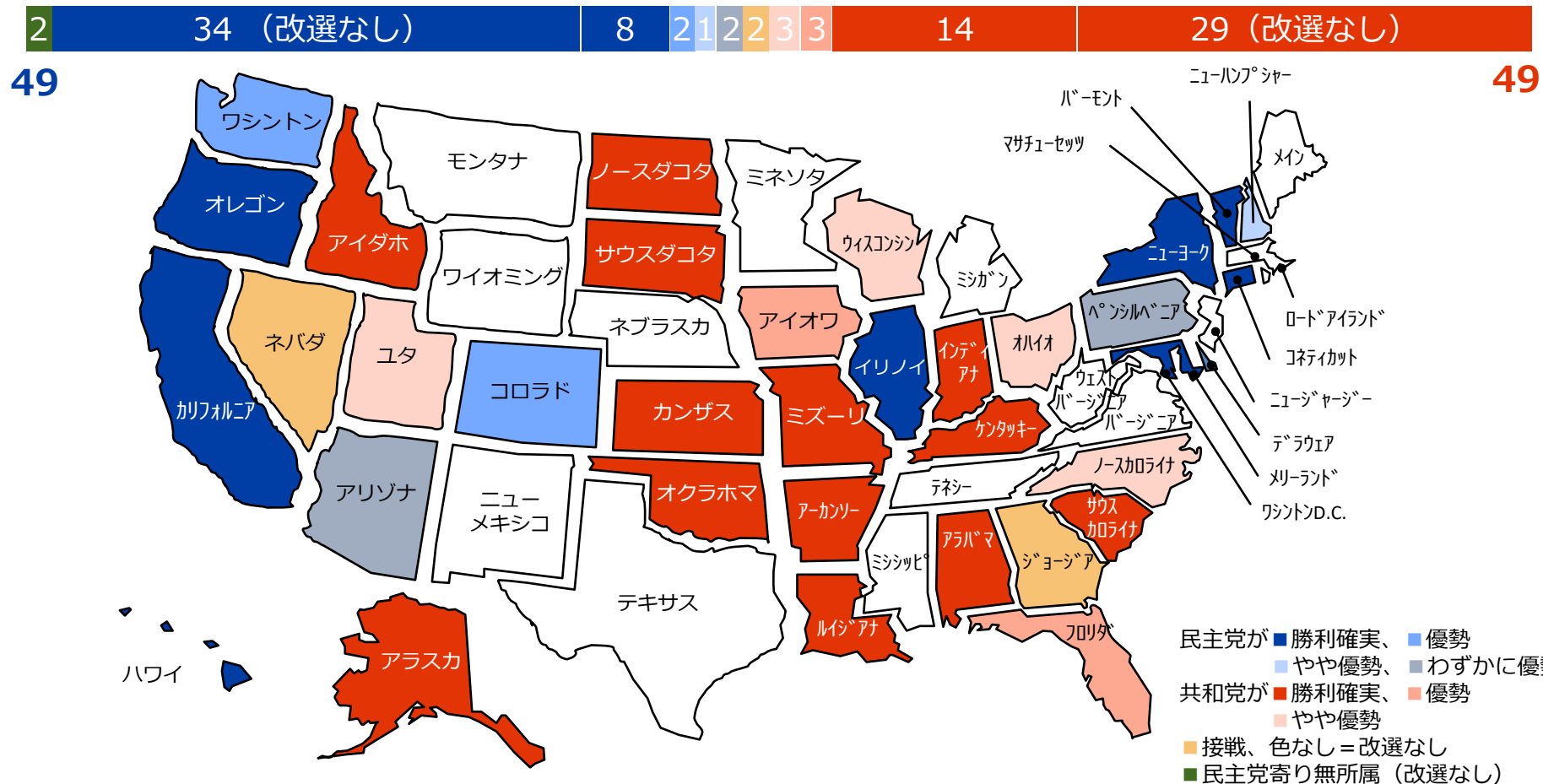


(注) 「ウォークイデオロギーの学校教育」とは、人種差別や性的マイノリティに関する学校教育を指す。

(出所) ハーバード大学とハリス・インサイト&アナリティクス (Harvard CAPS-Harris)

6-1 | 連邦上院選の見通し

- 改選は35議席。有力な選挙予測のコンセンサス予想（10月27日時点）によると、**改選後、民主党49議席、共和党49議席、不明（=接戦・Toss-up）2議席の見通し。接戦2議席は、ジョージア州とネバダ州。ペンシルベニア州とアリゾナ州では、民主党候補がわずかに優勢（Tilt）。**
- 改選35議席に限ると、民主党13勝、共和党20勝、不明2（Toss-up）の見通し。



6-2 | 連邦上院選の注目州 (1)

- **ジョージア州では、中絶問題に焦点**。ウォーカー氏が中絶問題を抱える。ワーノック氏は牧師だが中絶支持。
- **ネバダ州では、経済回復を望む有権者がラスベガス中心に多数**。ラクサール氏は知名度の高い候補。

ジョージア州

★ラファエル
ワーノック



ハーシェル
ウォーカー



- 支持率は、**ワーノック46.7%**対**ウォーカー45.5%**。1.2ポイント差。
- ワーノックは牧師で2021年1月当選の1期目。ウォーカーは元アメフト選手で、トランプから全面的な支持。
- 「中絶反対」を訴えるウォーカーだが、2009年、交際女性に中絶を求めていたことが発覚。元妻との間の長男が「ウォーカー氏は嘘だらけ」とネット上で非難。
- ジョージア州は、トランプが2020年に不正投票を訴えた地域。

ネバダ州

★キャサリン
コルテス=マスト



アダム
ラクサール



- 支持率は、**コルテス=マスト46.6%**対**ラクサール46.2%**。0.4ポイント差。
- 両候補とも、州司法長官を経験（コルテス=マストの後任がラクサール）。
- コルテス=マストは、2017年当選の1期目。ラクサールの祖父はレーガン元大統領の最側近、父は36年間上院議員を務め、知名度高い。
- ネバダの経済都市ラスベガスは、コロナ禍で大打撃を受けた。経済回復を求める有権者多数。

(注) ★は現職。

(出所) 世論調査結果はFiveThirtyEight (10月28日時点)、写真は連邦議会ウェブサイト、候補者陣営ウェブサイト等 Copyright © 2022 JETRO. All rights reserved.

6-3 | 連邦上院選の注目州 (2)

- **ペンシルベニア州では、州内で実績十分だが健康不安視されるフェッターマン氏**に支持が集まるか。2021年トランプ氏の弾劾裁判で賛成票を投じた現職のトゥーミー議員（共）は、今回出馬せず。
- **アリゾナ州では、2020年特別選挙で初当選したケリー議員の再選なるか**。2022年6月にトランプ氏から支持を受けたマスターズ氏は夏以降追い上げ。米墨国境からの移民流入などに焦点。

ペンシルベニア州

ジョン
フェッターマン



メフメト
オズ



- 支持率は、**フェッターマン46.8%**対**オズ45.8%**。1.0ポイント差。
- フェッターマンは州副知事。州内の小自治体で長年市長を務めた。オズは医師・テレビ司会者で、米国初のイスラム教上院議員候補（トルコ系）。
- フェッターマンは2022年5月に脳卒中を患った。後遺症が残っているもよう。医師のオズは同氏の健康不安を追及。
- オズは2018年より体力づくり・スポーツ・栄養大統領諮問委員会委員。バイデンが解雇。トランプが候補に推薦。

アリゾナ州

マーク
ケリー



ブレイク
マスターズ



- 支持率は、**ケリー48.0%**対**マスターズ44.4%**。3.6ポイント差。
- ケリーは元宇宙飛行士。2020年特別選挙で当選。マスターズは投資会社の元幹部で、2022年6月にトランプから支持を得た。
- 争点は米墨国境からの移民流入、犯罪、中絶、インフレ。ケリーは移民対策でバイデン政権と距離を置く。マスターズは条件付き中絶許可を主張。
- マスターズは、同州知事選に出馬しているカリ・レイクと共に、選挙活動を実施。
- 資金調達面では、ケリーがマスターズを圧倒。

(注) ★は現職。

(出所) 世論調査結果はFiveThirtyEight (10月28日時点)、写真はペンシルベニア州政府ウェブサイト、候補者陣営ウェブサイト等

7 | 連邦下院選の見通し

- 有力な選挙予測のコンセンサス予想（10月31日時点）によると、**改選後、民主党202議席、共和党223議席、不明（=接戦・Toss-up）10議席の見通し。共和党優勢。**
- 接戦10議席とは、カリフォルニア13区、カリフォルニア22区、イリノイ17区、メイン2区、ネバダ3区、ニューヨーク19区、ペンシルベニア8区、ペンシルベニア17区、ロードアイランド2区、テキサス34区。



カリフォルニア13区	
アダム グレイ	ジョン デュアルテ

ネバダ3区	
スージー リー★	エイプリル ベッカー

ロードアイランド2区	
セス マガジナー	アラン フォン

カリフォルニア22区	
ルディ サラス	デイビッド バラダオ★

ニューヨーク19区	
ジョシュ ライリー	マーク モリナロ

テキサス34区	
ビセンテ ゴンザレス★	マイラ フローレス★

イリノイ17区	
エリック ソレンセン	エスター キング

ペンシルベニア8区	
マット カートライト★	ジム ボグネット

メイン2区	
ジャレッド ゴールデン★	ブルース ポリキン

ペンシルベニア17区	
クリス デルジオ	ジェレミー シェイファー

※区割り変更に伴う、現職同士の争い

(注) ★は現職。
 (出所) 270toWin

8-1 | 反トランプ派共和党議員の動向

- トランプ氏に対する2021年の弾劾裁判で、賛成票を投票した共和党議員は上院7人、下院10人。
- 上院で出馬はマコウスキー議員のみ。2人は出馬せず引退表明済。1人は辞職予定。3人は改選年に当たらず。アラスカを選挙区とするマコウスキー議員は、トランプ派の共和党候補に対しやや優勢。
- 下院で本選出馬は2人。4人は予備選敗退。4人は出馬せず引退表明済。トランプ氏の影響力に注目。

・ 連邦上院選 7人

議員	選挙区	状況
リサ・マコウスキー (3) (注1)	アラスカ	共和党議員 当選確実 (注2)
リチャード・バー (3)	ノースカロライナ	出馬せず
パット・トゥーミー (2)	ペンシルベニア	出馬せず
ベン・サス (1)	ネブラスカ	辞職予定
ビル・カシディ (2)	ルイジアナ	改選なし
スーザン・コリンズ (5)	メイン	改選なし
ミット・ロムニー (1)	ユタ	改選なし

・ 連邦下院選 10人

議員	選挙区	状況
ダン・ニューハウス (4)	ワシントン4区	当選確実
デビッド・バラダオ (1)	カリフォルニア 21区	接戦/区 割り変更
リズ・チェイニー (3)	ワイオミング	予備選 敗退
トム・ライス (7)	サウスカロライナ 7区	予備選 敗退
ジェイミー・ヘレーラ・バトラー (6)	ワシントン3区	予備選 敗退
ピーター・マイヤー (1)	ミシガン3区	予備選 敗退
アダム・キンジンガー (6)	イリノイ16区	出馬せず
アンソニー・ゴンザレス (2)	オハイオ16区	出馬せず
フレッド・アプトン (18)	ミシガン6区	出馬せず
ジョン・カートコ (4)	ニューヨーク 22区	出馬せず

(注1) ()の数字は、当選回数。

(注2) アラスカの上院選は、マコウスキー氏 (反トランプ派) がケリー・ツイバカ氏 (トランプ派) に対しやや優勢。いずれも共和党員。

(出所) 270toWin (10月31日時点)

8-2 | トランプ派新人候補の動向 – 連邦上院

- **連邦上院選に出馬しているトランプ派新人は11人**。当落の内訳は、当選確実3人、やや優勢2人、接戦2人、わずかに劣勢1人、やや劣勢2人、敗戦確実1人。
- **連邦下院選に出馬しているトランプ派新人**（次ページ参照）**は25人**。当落の内訳は、当選確実7人、優勢6人、やや優勢7人、接戦1人、やや劣勢2人、劣勢2人。

候補者	州	現職との関係	見通し
ケイティ・ブリット	アラバマ	現職出馬せず	当選確実
マークウェイン・マリン	オクラホマ	現職出馬せず	当選確実
エリック・シュミット	ミズーリ	現職出馬せず	当選確実
テッド・バッド	ノースカロライナ	現職出馬せず	やや優勢
J.D. バンス	オハイオ	現職出馬せず	やや優勢
ハーシェル・ウォーカー	ジョージア	現職への対抗馬	接戦
アダム・ラクサール	ネバダ	現職への対抗馬	接戦
メフメト・オズ	ペンシルベニア	現職出馬せず	わずかに劣勢
ブレイク・マスターズ	アリゾナ	現職への対抗馬	やや劣勢
ケリー・ツィバカ	アラスカ	現職への対抗馬	やや劣勢
レオラ・レヴィ	コネチカット	現職への対抗馬	敗戦確実

(注) トランプ氏からの支持を受け、オープン議席および現職への対抗馬として、出馬している候補者の一覧。
(出所) 各種報道および270toWin (10月27日時点)

8-3 | トランプ派新人候補の動向 – 連邦下院

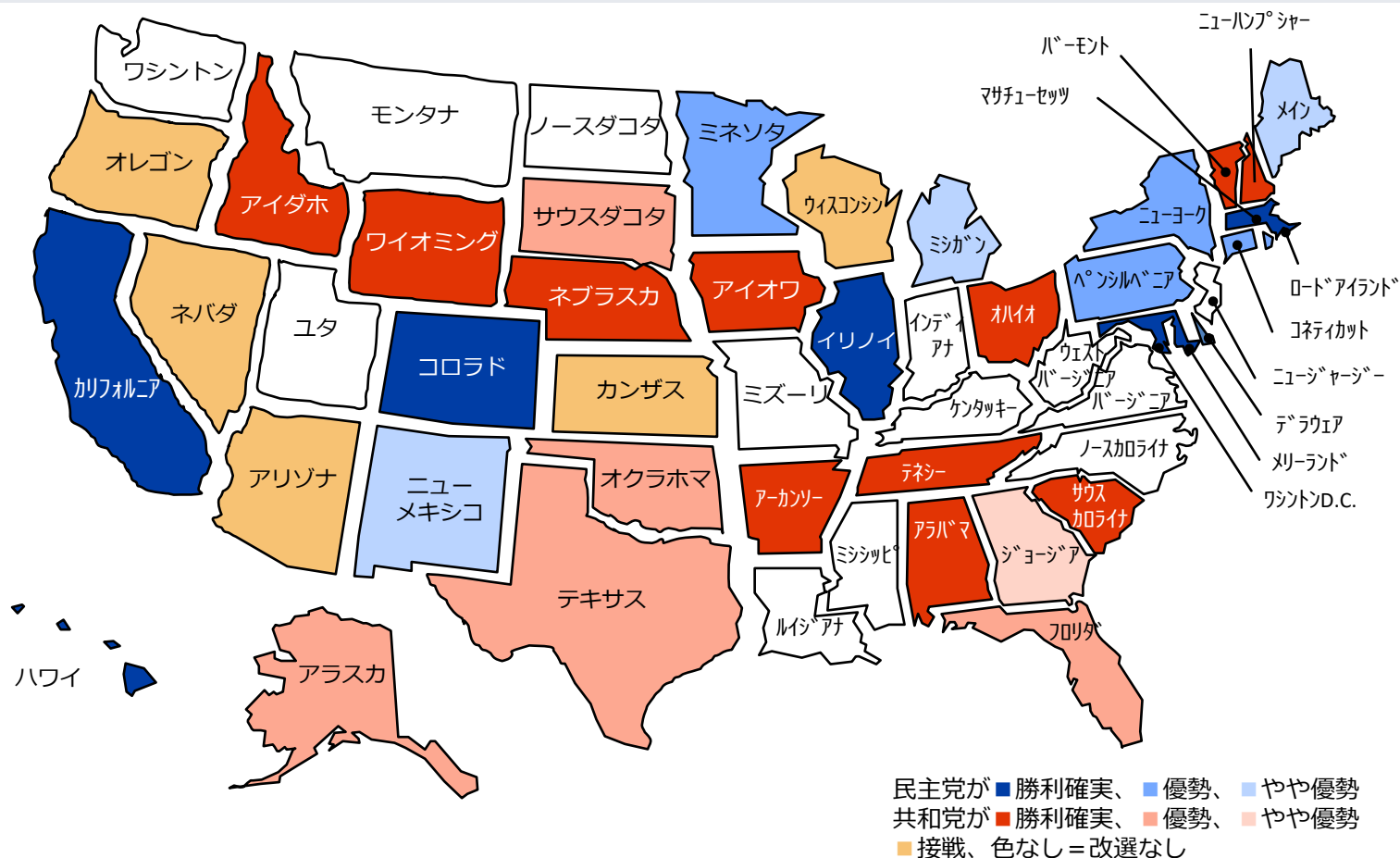
候補者	州	現職との関係	見通し	候補者	州	現職との関係	見通し
ラッセル・フライ	サウスカロライナ 7区	現職予備選敗退	当選確実	デリック・バン・オーデン	ウィスコンシン 3区	現職出馬せず	やや優勢
ハリエット・ヘイグマン	ワイオミング	現職予備選敗退	当選確実	イーライ・クレーン	アリゾナ 2区	現職への対抗馬	やや優勢
マイク・コリンズ	ジョージア 10区	現職出馬せず	当選確実	ジョン・ジエームス	ミシガン 10区	オープン	やや優勢
マックス・ミラー	オハイオ 7区	現職出馬せず	当選確実	モニカ・デ・ラ・クルーズ	テキサス 15区	オープン	やや優勢
ナサニエル・モラン	テキサス 1区	現職出馬せず	当選確実	ザック・ナン	アイオワ 3区	現職への対抗馬	やや優勢
キース・セルフ	テキサス 3区	現職出馬せず	当選確実	マディソン・ヘシオット・ ギルバート	オハイオ 13区	現職出馬せず	やや優勢
ウェスレイ・ハント	テキサス 38区	オープン	当選確実	ボー・ハインズ	ノースカロライナ 13区	オープン	やや優勢
コーリー・ミルズ	フロリダ 7区	現職出馬せず	優勢	ジム・ボグネット	ペンシルベニア 8区	現職への対抗馬	接戦
アンディ・オグルス	テネシー 5区	現職出馬せず	優勢	ジョン・ギブス	ミシガン 3区	現職予備選敗退	やや劣勢
ケビン・カイリー	カリフォルニア 3区	オープン	優勢	J.R. マジュースキー	オハイオ 9区	現職への対抗馬	やや劣勢
アンナ・パウリーナ・ルナ	フロリダ 13区	オープン	優勢	サンディ・スミス	ノースカロライナ 1区	現職出馬せず	劣勢
ライアン・ジンキ	モンタナ 1区	オープン	優勢	ケリー・クーパー	アリゾナ 4区	現職への対抗馬	劣勢
ジョー・ケント	ワシントン 3区	現職予備選敗退	優勢				

(注) トランプ氏からの支持を受け、オープン議席および現職への対抗馬として、出馬している候補者の一覧。

(出所) 各種報道および270toWin (10月31日時点)

9-1 | 州知事選の見通し

- 州知事（50州）の所属党別内訳は現在、共和党28州、民主党22州。今回は36州（共和党20州、民主党16州）で改選。有力な選挙予測のコンセンサス予想（10月28日時点）によると、**改選後、共和党25州、民主党20州獲得の見通し**。不明（=接戦・Toss-up）が5州。
- **接戦5州は、オレゴン州、ネバダ州、アリゾナ州、カンザス州、ウィスコンシン州。**



9-2 | 現職州知事の勝敗予測 (共和党)

州名	現職知事	再出馬	当選確実	優勢	やや優勢	接戦
アラスカ	マイク・ダンリービー	○		●		
アラバマ	ケイ・アイビー	○	●			
アーカンソー	エイサ・ハッチンソン	× (多選制限)	●			
アリゾナ	ダグ・デューシー	× (多選制限)				●
アイダホ	ブラッド・リトル	○	●			
アイオワ	キム・レイノルズ	○	●			
フロリダ	ロン・デサンティス	○		●		
ジョージア	ブライアン・ケンブ	○			●	
マサチューセッツ	チャーリー・ベーカー	× (多選制限)	民主党 当選確実			
メリーランド	ラリー・ホーガン	× (多選制限)	民主党 当選確実			
ネブラスカ	ピート・リケッツ	× (多選制限)	●			
ニューハンプシャー	クリス・スヌヌ	○	●			
オハイオ	マイク・デワイン	○	●			
オクラホマ	ケビン・スティット	○		●		
サウスカロライナ	ヘンリー・マクマスター	○	●			
サウスダコタ	クリスティ・ノーム	○	●			
テキサス	グレッグ・アボット	○		●		
テネシー	ビル・リー	○	●			
バーモント	フィル・スコット	○	●			
ワイオミング	マーク・ゴードン	○	●			

9-3 | 現職州知事の勝敗予測（民主党）

州名	現職知事	再出馬	当選確実	優勢	やや優勢	接戦
カリフォルニア	ギャビン・ニューサム	○	●			
コロラド	ジェアド・ポリス	○	●			
コネチカット	ネッド・ラモント	○		●		
ハワイ	デビッド・イゲ	× (多選制限)	●			
イリノイ	J.B. プリッツカー	○	●			
カンザス	ローラ・ケリー	○				●
メイン	ジャネット・ミルズ	○			●	
ミシガン	グレッチェン・ホイットマー	○			●	
ミネソタ	ティム・ワルツ	○		●		
ネバダ	スティーブ・シソラック	○				●
ニューメキシコ	ミシェル・ルーハン・グリシャム	○			●	
ニューヨーク	キャシー・ホークル	○		●		
オレゴン	ケイト・ブラウン	× (多選制限)				●
ペンシルベニア	トム・ウォルフ	× (多選制限)		●		
ロードアイランド	ダニエル・マッキー	○		●		
ウィスコンシン	トニー・エバース	○				●

(出所) 270toWin (10月28日時点)

日本貿易振興機構（ジェトロ）

海外調査部米州課



03-3582-5545



ORB@jetro.go.jp



〒107-6006
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル6階

世界の
ビジネス関連情報
を毎日掲載！

閲覧無料

『ビジネス短信』
はこちら



<https://www.jetro.go.jp/biznews/>

北米無料
メールマガジン
『North American
News Briefs』
毎日配信！

新規登録はこちら



<https://www.jetro.go.jp/mail/list.html>

■ ご注意

本資料は情報提供を目的に作成したものです。資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否はお客様のご判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じても責任を負うことができませんのでご了承ください。